

第9回東郷地域協議会会議録(要約)

日 時 令和5年12月12日(火) PM 7:00 ~ 9:00

場 所 新城市役所 4階会議室

出席者 委員 26名 事務局 4名

次第

- 1 あいさつ
 - 2 議事
(1) 来年度協議会推進体制及び委員構成見直しについて
 - 3 その他
-

1 あいさつ

2 議事

協議会の会議録署名

- ・定数 29 人のところ 26 人の出席があり会議は成立している。
- ・会議録署名について、会長及び署名委員を 2 名指名し署名をお願いした。

(1) 来年度協議会推進体制及び委員構成見直しについて

(事務局説明)

- ・地域協議会推進体制について
- ・東郷地域協議会に関する運営要綱について

その後、5つのグループに分かれ、以下2つの論点について議論を行った。討議終了後、各グループのリーダーから議論内容の発表があった。以下発表要旨となるが、各グループで出た意見の内、原案通りで良いという以外の意見を以下にまとめた。

①来年度の地域協議会推進体制について

(会議の進め方)

- ・柱で話を進めていく中で考えることが増えたりしてメンバー的に少し手薄になってきた場合、内容によっては話すテーマを他の柱に移したり、他の柱と一緒に考えてもらうこともありではないか。5本の柱はありつつも、全体で考えていく体制もあっていい。
- ・月1回の会議開催はちょうど良い頻度である。区長の仕事負担に対し、地域協議会の会議頻度はちょうど良い割合だった。
- ・会議の進め方だが、4~6月の間は、新委員の方は地域協議会のことがよく分かっていない時期で、5月から突然地域計画推進の内容検討に入っていくが、なかなか理解が追いつかない。任期2年目になってやっと実態が分かってくるので、任期2年を全う出来る人に参加してもらいたいということを実感した。4~6月の進め方は他に何か良い方法があるのではないか。また、地域協議会で考える予算は市の予算であるため、前年度中に計画された今年度の事業計画

を考えながら、同時並行で来年度の事業計画の予算編成をするということが理解し難い。まるでルールが分からないまま試合をしているような感じで、なかなか理解が追いついていかない。

- 柱ごとのグループワークの進め方に関しては、限られた時間の中で事業の検討をしていくのは非常に難しかった。現在もやっているけれども、市の担当者にもう少し話し合いに入っていたら、一歩踏み込んだ話をする場を設定して欲しい。そうすると、市民と行政のそれぞれの立場の擦り合わせができ、次のステップにいけるのではないか。
- 地域計画の推進について話し合う回数が少ない。新委員の方がいる中では、回数が少ないので、別日でグループだけで話し合う機会が増えればいい。地域計画自体がかなり広範囲に作られているので、新規事業を考えるには時間が足りない。もう少し会議の回数を増やしたらどうか。また、前半5~6月くらいのタイミングで全体共有の時間が要るのか。他の柱の議論に関わっていない人が質問するということについて、まだ事業が煮詰まっていない中であるのも時間の無駄ではないか。したがって、各柱で話し合いをする時間をもう少し増やし、事務局とのやりとりが必要となるが、何らかの形でとにかく時間を増やして欲しい。

(分科会)

- 地域計画の見直しや検証のための分科会は必要だと思うが、計画見直し期間を3年にするのか、それとも5年にするのかはまた協議すべきことかと思う。
- 税金をどのように有効活用していくかということが主眼の話になった。今までもよく話には出てきたが、単発事業ではなく、もっと継続的に事業が出来るような団体を育成するのが必要ではないか。いわゆる事業育成型という形で団体を育てるために、今までの柱に加え、収益を出すためにはどうしたらいいのかというような柱を新たに作るのはいかがでしょうか。

◎主な意見

会 長 以前は地域計画分科会があり、そこで月に数回かけて地域計画を練りあげてきた経緯があるが、今回地域計画を見直す分科会を立ち上げた方がいいのか。そのために新たにまた全員の中から7名ほど選び直し作るかどうか。それとも今の柱の中で地域計画の見直しをするところがあれば行う程度にしておくことも出来る。現状の計画が3年経った今も通用するものなのか、それとももうこの部分は完了しているから新たに事業を増やそうとか、分科会を作り考えていくことは皆さんいかがか。

委 員 私は任期1年目の時に地域計画のことがあまり頭になかった。こういう立派なものがあるということを徐々に気が付いた。おそらく新しく委員になった人はそういう気持ちがあると思うので、計画の見直しはやった方が良く思う。新しい考えが入ってきたら、従来の計画を根本的に変えてもいいし、項目を付け加えるなども考えられる。そういうことをやっていった方が今の時代は非常に厳しい時代なので、絶えず新しい人の意見も取り入れていきながら見直していかないと、時代に遅れてしまうと思うので、東郷地域を暮らしやすいまちにするためにぜひお願いしたい。

会 長 来年度以降、柱の中で抜本的に変えるというわけではなく、これは付け加えた方がいい、あるいは削除した方がいいという程度で進め、本当にそれが動きづらくなったなどが生じた場合、抜本的に改革するための分科会を作るなど、そういう形をと

らせていただきたい。

会 長 また、稼ぐ事業や団体を育成するための提案があった。柱をあえて1つ新規で作った方がいいのか、それともどこかの柱の方にそれをお任せするか。例えば、関心のある委員がいれば柱をシャッフルすることなども考えられる。この場ですぐ意見が出るということはあると思うので、例えば、次回の会合時に模擬的な話し合いをやってみるのもいいと思う。全然分からないことを今ここで議論してもなかなか前に進まない。

事務局 事業育成型で稼げる事業を生み出していきたいという意見について少し補足させていただきたい。昨年度の地域協議会でも今回と同様の話になった。やはり地域活動交付金だと、完全にボランティアベースであり、活動に対し賃金や人件費は出ないルールとなっている。ただ、このご時世でボランティアでは限界であるということが認識されてきている中で、稼いでもいいのではないかという話が昨年度あった。ただ、今までのようにボランティアで活動されている団体は当然尊い活動であり、それらを蔑ろにしたり、無くすわけではなく、あくまでも今ある形で引き続きやっていただいて、それにプラスして、地域ビジネスを育成し、事業によって稼ぐことも可能にしてはどうかということ。休耕地でサツマイモを作りオーナー制のような形で売り出したらいいのではないかと先ほどのグループの話し合いの中で意見としてあった。仮にそのような事業を実施してくれる団体や人が地域にいたのであれば、その団体に対し、活動資金を投資して、例えば3年間という期間限定として、地域活動交付金のようなボランティアベースではなく、ある程度団体として稼いでも補助金が受けられるという仕組みとする。そのような地域ビジネスのスタートアップを応援する仕組みを東郷地域で新たに作るための検討を行うなども考えられる。今会長から言われたように、次回会議で模擬的にその提案が実行できるのかを話す時間を作ったらどうか。

会 長 次の会議は1月30日だが、そこで来期に向けての提案の一つということで議論をさせていただきたいので、次回までに各自頭の中で考えてきていただきたい。

委 員 今やっている例えば草刈りなどを1時間いくらで安く請負ってしまうと、シルバー人材センターさんとの兼ね合いが生じてしまわないか。また、交通が不便であるということで、地域で白タクみたいな事業をすると、豊鉄バスさんやタクシー業者さんなどの兼ね合いが出てくる。今ある事業に対して私たちがボランティアの枠を超えて稼ぐ事業をしても問題ないのか。

事務局 つまり民業圧迫ということかと思うが、当然今言われた白タクは法的にかなり難しくなっているので、実際に事業として実施するというのは難しいかもしれない。ただ、東郷地域や市内業者さんの行う事業と棲み分けをしながら地域で出来ることはあると思う。例えば、草刈については、シルバー人材センターで掲げている予算よりか安価な金額を設定することで、シルバー人材センターから仕事を取ってしまうことになるかもしれない。ただ、協議会で前話題となった事例を紹介させていただくと、長野市の取り組みで草刈隊を作っており、実際夏場は、シルバーさんと高齢者の方が多いため、人材を派遣するには体力的にも厳しいといった課題があるとのこと。したがって、実際に事業化する場合には、業者さんと話し合いや調整を行い、仕事の棲み分けをしながら進めていかないといけないと思う。

会 長 今の地域活動交付金では、人件費を出したり有償ボランティアをしたりなどの仕組みは出来ない。実現するのであれば、地域協議会で仕組みを提案して、3年間なら3年間限定で団体に対し投資していくという形になると思う。今の地域活動交付金の仕組みをアレンジしていくことが出来ればいい。次回の会議で検討していくのは、あくまでも仕組みの検討。具体的な地域ビジネスの事業計画を作るなどそこまで詳しくは検討しなくてもいい。委員の皆さんの頭の中である程度イメージを考えてきていただくと話し合いが早く進むのではないかと。何も考えずにきて、そこで30分間話してくださいだとなかなか進まないと思うので、イメージだけでも持ってきていただくとありがたい。難しいかもしれないが、話し合ってみるのも一つの手段かなと。東郷地域で実現できれば非常に活動しやすくなるので、この事例をうまく利用出来れば、市全体の地域活動交付金についても改正に繋がっていくかもしれない。現在は、時給1,000円くらい出してみようとかそういうことではなく、そもそもお茶菓子代も出してはいけないという状態なので、そういうところも、いずれは何年後かには改正できるような方向に持っていきたい。

事務局 非常に難しい話になっている。皆さん、次回までに考えるイメージは出来ているか
委 員 東郷のホームページにおいてパソコンやインターネットを活用して稼ぐことが出来る方法があるという話をこれまでしてきた。例えば、そういうことも一つだし、他のアイデアとしては、東郷地域で何か特産品を作り、どこかに売るなど、そういうことを考えましようということ。特産品として例えば八名丸のような、東郷地域でしか出来ないようなものを開発できればいいが、それには特別な研究チームを専門に作って、3年ほどかけて、年中考えてないと出来ない。全国に発信できるような特産品の開発には、かなりの専門性を求められるので、ただ寄せ集めの地域協議会の軍団だけでは無理だと思う。だからそういうことを考えて検討していただければありがたい。

事務局 例えば、特産品を作ったりして売り出したり、インターネットを使って何かビジネスするなど、そういうことを、例えば地域協議会でアイデア出してやった方が良いのではないかと考えた時に、結局誰がやるのかという問題が出てくる。やってくれる人がいない、見つからないと思う。だから、事業実施に手を挙げてくれるような仕組みを考えるというイメージ。若者にこだわるわけではないが、例えば、若い人が何か東郷で地域ビジネスをやってみたいとなった際に、現状の地域活動交付金は基本的にはボランティアがベースとなった活動なので出来ない。だから、もう1つ新たな仕組みがあると、若い人たちが手を挙げて、何らかの地域ビジネスをやりたいという人が1人でも増えるような、そういったアイデアがあれば次回の会議で考えませんかということ。

委 員 私の解釈で合ってればいいが、例えば地域協議会で決まった休耕地を考える会。その会のメンバーは今ここにいらっしゃる方のどなたかがおそらくなると思うが、そのメンバーを集めるためのアイデアを考えるイメージでいいか。

事務局 事業を実施するプレイヤーがないという現状がある。例えば、地域協議会で事業の新しい提案やアイデアが出たとして、結局その担い手がないという現状がある。その担い手を集めるための工夫としては、非常に的確なところだと思う。また、休耕地を活用して、例えばキャッサバを作るビジネスをやりたいという人が仮にい

た場合に、今の地域活動交付金だと稼ぐ事業には交付できないので、全てボランティアでの活動となってしまう。だから、なかなか手挙げる人がいないという中で、地域で何か挑戦したいという人が、挑戦できるような仕組みを考えませんか、ということ。

渡邊副会長

例えば、地域活動交付金だと上限 50 万円までとか、こういう仕組みや規制の中でやりたい活動をやるという話であるが、例えば上限を 150 万円や 200 万円に引き上げてそれを 3 年間実施出来るということをやったって、例えば備品も買って良いということ仮にスタートアップとしてビジネスプランをやっていききたいとなった場合が考えられる。例えば、私が何か事業をやり始めて、3 年後自主財源でやれるようになったが、地域からすると、私の事業は儲かっているけれども、単純に地域のお金を使って起業しただけではないか、みたいな話になってしまっているのか。ただ、それが休耕地を活用するなど地域課題を解決するようなものであれば良いということか。例えば私が何かやりたいビジネスプランがあって、そのビジネスプランのスタートアップを地域協議会のお金で 3 年で 300 万円まで出してくれるらしいとなっても、あくまでも地域課題を解決することとリンクしながらビジネスをやって展開できるところに、もうちょっと大きなお金を投じてもいいのではないか、そういう企画というか骨格をこの地域計画の中に追加で入れていけないか、また、既存の地域活動交付金以外の存在としてそういう仕組みや仕掛けを作っていくことを皆で考えませんかという考え方で合っているか。

事務局

その通りだと思う。一応既にめざせ明日のまちづくり事業補助金という市の仕組みの中でコミュニティビジネス部門がある。ただ、あくまでもスタートアップなので、補助金をもらえるのは 3 年までと決まっている。その場合に、事業期間内に稼いだお金は、地域活動交付金みたいに交付金額を減らされるのではなく、個人には分配は出来ないが、その団体で事業のために貯めておける仕組みがある。

会 長

今だけでも色々な案が出たと思う。もう少し時間を使ってイメージを分かっていたら、次回の会合の時に良い意見が出てくるのではないかな。他に分からないことがあったら事務局の方に言っていただければ説明はしてくれると思う。

委 員

どんなビジネスも失敗はつきもの。最初に、年間 300 万円もらってトータル 3 年間で 900 万円投資したが、結局駄目になったとしても、ビジネスというのは失敗もあるし成功もある。成功した時だけ報酬や利益を取ろうとしても無理。結局失敗するとしてもそのビジネスプランに OK を出したのは地域協議会だから。ビジネスだから当然失敗もある。だからそのリスクも覚悟して考えないとしょうがない。商売というのは失敗もあるし成功もあって、それでいいと思う。それで地域が活性化するなら、そのくらいのリスクを取らないで何が出来るのか。事業として儲かったら税金として市に還元出来ればそれでいいのではないかな。

会 長

それを含めて皆さん考えてきていただけるとありがたい。せっかく生まれた事業を潰さないように、地域協議会としても目を光らせて、ある程度監視

はしておかなければならないので、あまり変な方向へ向いていくようだったら、声を掛けるくらいは出来ると思うので、それも含めて、どういうシステムや方法があれば良いのかということイメージしてきていただくとありがたいと思う。

(地域協議会 PR 方法)

- ・地域協議会の知名度はまだ不足していて、住民の方に地域活動交付金募集チラシの回覧板を回しても、なかなか理解されていないという実感を持っている。もう少しそこを見直していったらどうか。また、少子高齢化や空き家、耕作放棄地の問題もあるが、住みやすいまちを目指すということで、子育て女性の活躍の場や自然を愛するまちに力を入れていってはどうか。

【決定事項】

- ・次回の会議にて、地域課題を解決するコミュニティビジネスについて、東郷地域協議会として新たな仕組みなどを検討することとなった。

②来年度の地域協議会委員構成について

(若者、女性の委員構成)

- ・来年度の地域協議会委員構成については、出来れば様々な年代の人が集まってくれるといいいのではないかとはいえ、例えば新たにこども園保護者会枠を作るというのもなかなか大変なので、若い方をどなたか推薦してもらうことで若い世代を入れこむ方がいいのではないかと。
- ・PTA や消防団などの組織から希望があったら委員として出してもらえるような形になってもいいのではないかと。
- ・委員枠で、女性枠をあえて抜き出しているが、この女性枠は必要なのかとずっと思っていた。また、女性枠の中で西中東ブロック枠に分けているが、うちはこども園に通っている子どもはいないので、あえてブロックを分けている意味が分からない。それであれば、女性枠ではなく、全部その前年区長会推薦枠に入れておいて、うち女性は何人以上という組み方でもいいのではないかと。あえて抜き出していることが、かえって差別化しているようで嫌だと感じている。

◎主な意見

会 長 女性枠を撤廃してもいいのではないかと意見が出た。あえて女性枠という言葉は書かず、女性何名以上という記載に変更する、その方が良ければそういう形にしてはどうかと思うがいかがか。

委 員 女性という立場の一定人数を確保するという事ならば、確かに女性枠で極端に言うブロックはもう西中東というブロックで狭めるよりも、また偏りがあったとしても女性代表ということになるならば、仮に東地域で3人いたとしても問題ないと思う。それぞれ別エリアで選ばれるよりも、女性という立場で物を言っただけならば、このブロックなんてものはまず必要ないだろうし、枠なしという3人がいるならば提案のあったようにすべて前年区長会推薦枠に入れこむ形でもいいかと思う。

会 長 これまで、なかなか女性でやっていただける方がとても少なかったもので、あえて強引ではないが、そのような流れでこの形になった経緯がある。本当だったら、その

ような形でなくても女性がたくさん出てきていただけるとありがたい。今後の新たな女性を増やすためにも、女性枠を無くしてもいいと思う。また、前任区長会推薦及び新委員枠という言葉だが、少し分かりにくいので何かアイデアがあったら教えていただきたい。一度事務局の方でも考えさせていただく。

【決定事項】

- ・委員構成に関し、区長会推薦枠の中の女性枠を無くし、「前任区長会推薦又は新委員枠」に統合する。内数として女性6名以上と明記する。

(区長、行政区との関係性)

- ・各柱に2名ほど区長が入ると、区に持ち帰って話ができるのではないかと。先日、地域協議会から区長会に説明に行かれたと思うが、その際には、地域協議会のことが分かりやすかったらしく、その交流をもう少し回数増やしてもいいのではないかとという声があった。また、行政区代表者は区長に対し地域協議会の会議内容を報告をするようになってきていると思うが、きちんと出来ているのか。地域協議会の活動が区長も知らないまま次の区長さんが地域協議会委員になった時は、地域協議会のことがよく分からないという意見もある。
- ・区長会の中に地域協議会委員という役職をつけて、区長会の方から出向のような形で、地域協議会に来てもらう。そうすると、区長会に戻って地域協議会の内容の話が出来るので、区長さんにきちんと伝わる。そのような役職が出来たらいい。その役職については、子ども会やPTAなどにもそういう役職が出来て、地域の団体と地域協議会がクロスするようになると、地域協議会が地域に浸透していくのではないかと。
- ・今後各行政区から地域協議会委員を選出するのはなかなか難しくなってくるのではないかと。

◎主な意見

事務局 区長さん区長会との繋がりという部分で、もう少し説明を増やしたり、区長会の中に地域協議会担当連絡係みたいな役割つけるという話があった。実はすでに八名区長会でやっていて、地域協議会と区長会がしっかりと連携するために、区長会の方で、地域協議会担当という役割をつけて、その方は地域協議会に出た時にその内容を区長会で連絡し情報共有する仕組みとなっている。一度、代表区長さんと協議させていただきたい。

【21:00 終了】